

# 「津島市民病院 新改革プラン」を策定しました

平成37年(2025年)には、団塊の世代の方々が75歳以上となり、医療や介護を必要とする高齢者が大幅に増えると言われています。

求められる医療も大きく変化することが予想され、地域の医療のあり方を見直す必要があります。

また、「医療を継続的に提供していくためには、安定した病院経営も欠かせません。」

津島市民病院は、この地域の医療の確保のために重要な役割を果たしてきました。これからも引き続き、地域の大切な病院としてあり続けるために、「津島市民病院新改革プラン」を策定しました。

このプランでは、津島市民病院の果たすべき役割や方向性(将来像)、病院経営のあり方などについて示しています。

地域の皆さまに安心して暮らしていただくよう、市民病院の経営改革を進め、より良い医療を提供していきます。

なお、「津島市民病院新改革プラン」は津島市民病院のホームページでご覧いただけます。

<http://www.tsushimacity-hp.jp/>

※団塊の世代とは昭和22年～24年ごろの第一次ベビーブーム時代に生まれた世代。

問合せ 市民病院経営企画課経営企画G

☎28-51-51



## 津島市民病院新改革プラン(抜粋)

### 《海部医療圏の状況(課題)》

- 高度な集中治療を行う病床が少なく、緊急性の高い救急医療について、他の医療圏との連携体制の維持が必要。
- 患者の多くが名古屋医療圏(名古屋市)へ流出。成人肺炎や大腿骨骨折など回復期につなげることが多い疾患については、圏域内で対応することが必要。
- 回復期機能の病床の確保が必要。



## 《津島市民病院の基本理念》

「地域とつながり安心・信頼の医療を提供します」

## 《津島市民病院の経営改善の取組》

- 地域の保健・医療・福祉の向上のため、**医師の育成・確保と経営体質の改善**を図り、安定的な地域医療を推進。（「津島市民病院改革プラン」平成21年3月）
- 「二次救急病院としての充実」、「中核病院としての充実」、「市民病院としての充実」の3つの充実により、「健康つしまの核」、「地域における最高の病院」を目指す取組。（「津島市民病院経営ビジョン」平成26年6月）

## 《計画期間》

平成29年度から平成32年度の4年間

## 《計画の4つの視点と主な取組》

### ①地域医療構想を踏まえた役割の明確化

- ・急性期機能（専門性の高い医療を提供）
- ・回復期機能（在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供）

⇒「海部医療圏の医療を守る要」となる中核病院

◎救急医療に確実に対応

◎手術、がん治療などの専門性の高い医療を提供

◎患者の状態に応じた医療の提供

◎在宅・生活復帰に向けた医療の提供と介護施設等で対応困難な方の緊急時の受入

### ②経営の効率化

- ・一時借入金の縮減
- ・計画期間内の経常収支黒字化
- ・平成37年度における資金不足比率0%

◎方針・目標、地域での役割を明確に設定・共有

◎医療従事者の確保・育成

◎救急、紹介等患者の受入などによる収入増加・確保

◎薬品費などの経費の削減・抑制

◎患者の安全を最優先する体制の充実

### ③再編・ネットワーク化

- ・海南病院、あま市民病院（海部医療圏内）
- ・名古屋第一赤十字病院、稲沢市民病院など（海部医療圏外）

⇒連携体制を構築

◎患者の相互紹介

◎医療情報の共有

◎地域包括ケア病棟の活用

### ④経営形態の見直し

- ・公設公営（地方公営企業法の一部適用）

⇒今後もこの経営形態を基本

◎状況に応じた最適な経営形態の検討

## 《新改革プランの推進》

- 向こう3カ年の各部門が行う**具体的取組を示した「実行計画」**を定め、**毎年見直しを実施**。
- 外部有識者で構成する「津島市民病院経営改革評価委員会」を年1回以上開催し、**点検・評価の内容を病院ホームページなどで公表**。
- 津島市民病院の**看護師・コメディカルの力の、地域の共有財産としてのさらなる活躍**。
- 医療制度、近隣の医療提供体制、財政状況など、**津島市民病院を取り巻く環境の変化に適切に対応するための必要に応じたプランの見直し**。